

によって悩みの解消を図ることに努めた。

#### ⑤ 施設の充実

生徒の学習意欲を高める、また教師の研究実践のために、教育環境の整備充実を図った。すなわち、施設設備については特に図書館、視聴覚機材の拡充に意を注いだ。

## 6 福島県立福島盲学校

### (1) 研究主題 盲児童生徒の代償行動の実態調査とその指導について

盲児は視覚障害から孤独、自己中心的、閉鎖の性格になりやすく、この性格から、不適応な行動を生じ欲求不満を起ししやすい。このよな不適応からくる代償作用を調査し、よりよい人間形成のための資料を得る研究を行った。

### (2) 研究成果

#### ① 研究組織をもった。

#### ② パーソナリティの特色について調査を行なった。

県教委指導主事、福大工藤教授、中央児童相談所員の指導をうけた。

「矢田部・ギルフォード性格検査」を実施した。調査結果は、内向的、情緒不安定、社会的不適応、非活動的な性格が比較的多いことが指摘される。

#### ③ フラストレーションの原因とその適応メカニズムについて調査を行なった。

悩みの調査、質問形式で代償的行動の調査を実施した。

これらの調査に基づき、今後観察、面接等を通してより正しく実態を把握するとともに、適切な指導の研究にはいる。

## 7 福島県立福島ろう学校

### (1) 研究主題 言語指導（読話）

読話発達を阻害する諸要素とその実態を知り、指導方法の基礎的資料の作成を目標とする。

### (2) 研究成果

#### ① 研究組織を通してテストを実施し、児童、生徒の実態と傾向の調査と分析を行なった。

#### ② 環境と読話（日本語百音節ランダム構成リスト）送話者と被検者との距離と角度は予想どおりの結果が表われた。

#### ③ 知能と読話（新制田中B式「第1形式」使用）偏差値と読話力の相関度は大体順相関である。

#### ④ 性格と読話（日大心理学教室編「簡易性度検査」）男子は外向性が強く、女子は内向性が強い。

#### ⑤ 学力と読話（主要教科にとどめた）

読話線と学力線がほぼ一致する。

小学部傾向線が僅少な開きを示すが、高学年に進むにつれて開きが増大する。

#### ⑥ 読話テスト（読話、問答、無意味語書取）

助詞の見誤り、口形象視覚のふじゅうぶん、語句指導の偏形、調音部位の不安定よりのは握が見られる。教師の正確適応指導が必要である。

この調査に基づき、個人指導の諸傾向を知る研究にはいる。

## 第13節 県立学校訪問

「県立学校経営の充実をはかるため、各学校の現職教育、教科指導および生徒指導に関する助言と指導を行なう」ことを目的として学校訪問を実施したが、本年度は主として産業教育、新設校に重点をおき、下記の要項により訪問した。

### 1 訪問校と訪問者

#### 第一班

6月8日 会津農林高校、6月9日 只見高校、6月10日 川口高校（訪問者）栗村道彦、塩田諭、佐藤貞子、好川忠、鈴木正一

#### 第2班

6月8日 喜多方工業高校、6月9日 耶麻高校、6月10日 西会津高校（訪問者）栗原喜蔵、赤津千町、佐久間俊忍、若杉栄

#### 第3班

6月24日 四倉高校（訪問者）藤井勇、佐久間俊忍、塩田諭、成田政栄、佐々木英雄、6月25日 小名浜水産高校、6月26日 勿来高校（訪問者）藤井勇、塩田諭、横山茂、成田政栄、佐々木英雄

#### 第4班

6月24日 相馬高校（訪問者）栗村道彦、吉田為明、横山茂、立花正敏、6月25日 相馬農業高校、6月26日 小高工業高校（訪問者）栗村道彦、佐久間俊忍、吉田為明、立花正敏

#### 第5班

11月10日 二本松工業高校（訪問者）佐久間俊忍、吉田為明、横内直典、鈴木正一、石川進、11月11日 須賀川女子高校（訪問者）藤井勇、若杉栄、吉田為明、佐藤貞子、鈴木正一、松山六郎、11月12日 郡山西工業高校（訪問者）藤井勇、佐久間俊忍、栗村道彦、鈴木正一、松山六郎

#### 第6班

11月10日 本宮高校（訪問者）赤津千町、佐藤貞子、横山茂、佐々木英雄、松山六郎、11月11日 郡山商業高